

## 愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

## 研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテ記録や通常の診療で行った検査等の結果を含む記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテ情報・診療記録等を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	脳卒中急性期における機能予後および転帰先に影響を与える要因の包括的解析
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 脳神経外科学 (職名) 准教授 (氏名) 井上 明宏
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2030年 3月 31日
対象となる方	2010年1月から2026年3月に当院に入院した脳卒中患者さんのうち、リハビリテーション介入が行われ、地域連携パス等により転帰先での評価が得られた患者を対象とします。
利用する試料・情報等	基本情報：年齢、性別、BMI、病型（梗塞・出血等）、脳卒中の既往歴（初発/再発の別）、合併症等。医学的指標：入院時および退院時脳損傷の重症度、意識レベル、社会的自立度、在院日数、転帰先等。生化学データ、リハビリテーションプロセス等
研究の概要 (目的・方法)	本研究の目的は、脳卒中急性期におけるリハビリテーション介入指標が、回復期退院時のADL予後に与える影響を明らかにすることです。自施設の長期間にわたる診療録情報を用いた後ろ向きコホート研究として実施します。具体的には、診療録および地域連携パスの記録から、発症からリハビリテーション介入までの時間（Hour）、血液検査データ、および退院時ADL（Barthel Index等）を遡及的に抽出します。これらの多角的な臨床指標の関連性を統計学的に解析し、急性期データに基づく精緻な予後予測モデルを構築します。

個人情報の保護 について	<p>この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	<p>愛媛大学医学部附属病院 リハビリテーション部門 宮木 鉄平 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel : 089-960-5723</p>